

島原角屋、西本願寺見学

本日は、授業終了後、新選組の足跡を見るために、島原角屋、西本願寺方面に見学に行きました。授業終了は12時。島原角屋での見学予約は午後1時半開始。1時間半で、移動と昼食を済ませる必要があります。JR 茨木駅から高槻駅で新快速に乗り換え京都駅。山陰線に乗り換え、梅小路京都西駅で下車したのが午後1時。角屋まで徒歩8分程度なので、20分で昼食をすませます。七条通を渡ってパンの「志津屋」に入りました。



厚めのレーズントーストにコーヒー、ゆで卵のセットで480円。食べきれない人は他メンバーとシェア。予定通りに、午後1時半に「角屋」に到着しました。寛永18年（1641年）に現在地に移築されました。



「角屋」 昭和27年（1952年）、国の重要文化財に指定された揚屋建築

角屋は1階が美術館になっていて入場料が1000円。2階の座敷も見学できて入場料が800円。全部で1800円。見学の際は説明員が説明してくれます。少し早口でついていくのが大変でしたが、勉強になりました。

「花街」と「遊郭」について

「花街」は歌や舞を伴う遊宴の町であり、「遊郭」は歌や舞もなく宴会もしない、歓楽のみの町。島原は「花街」になります。一方、江戸にあった吉原は「遊郭」になります。

「揚屋」と「置屋」について

「揚屋」は、太夫や芸妓を抱えず、「置屋」から派遣してもらって、お客様に遊宴をしてもらう場所。料理を作るので、現在の料亭、料理屋に当たる。お客様を2階に上げるので「揚屋」と呼ばれます。

「置屋」は、太夫や芸妓を抱えて、「揚屋」に派遣します。

この分業制は「送り込み制」といい、現在の祇園などの「花街」にも伝えられています。

「島原」について

角屋は寛永18年に官命により現在地に移されましたが、その移転騒動が5年前に九州で起きた「島原の乱」を思わせたことから「島原」と呼ばれるようになりました。正式地名は「西新屋敷」です。

次に、「角屋」の内部を見学しました。



「角屋」は大きな宴会場であり、台所も大きいです。



「松の間」で「臥龍松の庭」を眺めながら、説明を聞きました。
新選組の芹沢鴨は八木邸で暗殺される5時間前に「松の間」で宴会をしていたそうです。



「網代の間」で、談笑

「網代の間」から見える中庭



西郷隆盛が幕末に使用した盥



当時使用されていた駕籠



久坂玄瑞の碑

「角屋」は太平洋戦争中に山陰線保護のため取り潰しを検討されましたが、「明治の元勳」も使用したとのことで、保存を交渉されたそうです。また、「角屋」では遊宴のみならず、お茶会や句会なども行われ、文化サロンとしての役割も果たしていたそうです。与謝蕪村の絵も展示されていました。
2階の座敷も解説付きで見学しましたが、2階は写真撮影不可でした。



置屋の「輪違屋」 内部見学不可



島原の大門も見学しました

次に、島原から東に歩いて移動して、「西本願寺」に向かいました。西本願寺は豊臣秀吉の寄進により、大坂から移転して来ました。この唐門は2021年9月に修復が完成したところです。まだ綺麗です。



西本願寺の唐門を南側から見学



一日中見ても飽きないので「日暮門」とも言われる

新選組は規模が大きくなるにつれて、壬生の八木邸が手狭になり、西本願寺に移転し約2年間過ごしたそうです。西本願寺では境内で実弾射撃の演習をしたり、大砲の空砲を鳴らしたりで、迷惑がられていたとか。

最後に、西本願寺から南へ歩き、京都駅へ向かいました。途中で2つの碑を見学しました。



伊藤甲子太郎は、慶応3年(1867年)11月18日に油小路七条の本光寺門前で新選組により暗殺されました。伊藤は尊王討幕の思想であったため、佐幕派の近藤勇とは意見が合わなかったそうです。

リーガロイヤルホテル京都の入口に、「新選組・不動堂村屯所跡」の碑がありました。1867年に西本願寺からこの新しい屯所に移動してきましたが、引越し費用は西本願寺が支払ったそうです。しかしわずか半年後に、「王政復古の号令」があり、新選組は伏見奉行所に再度移動することになります。

ここから京都駅まで歩いて10分。観光客が戻ってきた京都駅で解散しました。